

『北海道における仕事と生活の調和推進について』

北海道労働局長 福島 康志
(北海道生産性本部 顧問)



1 なぜ、今、仕事と生活の調和が求められるのか

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらします。同時に、家事・育児、近所とのつきあいなども皆さんの生活には欠くことのできないものであり、これが充実してこそ、生きがいや喜びは一層増していくものと考えます。

しかし、私たちが今生活している社会には、「安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない。」「仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない。」「仕事と子育てや老親の介護との両立に悩む。」など、仕事と生活の間で問題を抱えている人が多いこともまた現実です。

北海道では、労働者の所定労働時間数が全国平均よりも長く、年休取得率も全国平均よりも低いことから、半分以上の年次有給休暇が使われることなく消滅しています。

このような状況に対し、北海道労働局では平成18年度に学識経験者委員等9名からなる「北海道ブロック仕事と生活の調和推進会議」を設置し、北海道で働く労働者が仕事と生活の調和を図りながら意欲に満ちて元気に働くことができるようにするための提案として、「北海道ブロック仕事と生活の調和推進プログラム」を策定しました。

2 北海道ブロック仕事と生活の調和推進プログラムとは

このプログラムでは、北海道の仕事と生活の調和のため次の事を提案しました。

- (1) 年休取得により働く人が元気になり、会社も活性化 (JUNE FEST; 6月祭)
- (2) 単身赴任者が、家族と過ごす時間をもっと増やし、心身の健康を保つ
- (3) 北海道の気候・風土に合った働き方を皆で話し合い、豊かな大地の上での生活をもっと楽しむ

北海道の新緑季節である6月を「年次有給休暇取得促進月間」とし、期間中の年休取得を奨励しており、解りやすいDVDを希望者に無料配布しています。

また、単身赴任者にとっては、本人の心身の健康保持、家族の絆の維持等のため休日は家族の元に戻って一緒に過ごすことが極めて重要だと思っておりますので、会社も単身赴任者に対しては「休日前日の終業時刻の繰り上げ」、「休日の翌日の始業の繰り下げ」等の配慮も大事な工夫の一つだと思っております。

3 最後に

北海道における仕事と生活の調和を進めていくためには、本推進プログラムの提案を基に、これを実践していく主人公である会社とそこで働く労働者が、話し合いを行い、できることから一歩ずつでも始める事が大変重要だと思っております。

道内に本社がある会社の中には、年休の100%消化を目標とし実践していたり、配偶者出産に際して数日間を有給休暇としている会社もある等、この傾向は徐々に増えてきていると聞き及んでいるところです。

今後、「有給休暇で北海道をもっと元気に」を皆様の合い言葉にさせていただき、会社と労働者、行政が一体になって北海道が真の「北の生活大国」に向けて進んでいくことを期待しております。